

登録コード	L1340100		開講年度	2026			
担当教員	佐藤 広英			副担当			
授業科目	文化情報論応用実習						
英文授業名	Applied Informatics: Seminar						
授業タイトル	文化情報論応用実習						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・4時限 水曜・5時限
講義室	人文メディア演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加わむ対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー				研究計画にもとづいて、実証データを適切に集約・分析・表現できるようになる		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加わむ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				調査法・尺度構成法および多変量解析について理解することができる		
	【2023年度以降加わむ対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】				研究計画にもとづいて、実証データを適切に集約・分析・表現できるようになる		
授業で学べる「テーマ」	地域運営、キャリア						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	現代の社会の諸問題に問題を見だし、調査研究を実施して立論と解決を行っていく過程を通して、情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシーを身につける。具体的には、身近な問題に関する社会的態度をテーマとし、問題の発見と立論，調査計画，尺度構成，単純集計，多変量解析，論文（レポート）執筆といった調査研究の全過程を習得する。						
授業計画	実習の進行により、内容や順序は多少変動する可能性がある。 1. 統計基本 基礎統計量の算出 2. 統計実践 データ変容・クロス表の分析 3. 統計データ解析 平均値の統計的検定 4. 第1調査 社会的態度尺度の構成 質問項目の検討 質問紙調査法 5. 予備調査データ項目分析 GP分析・信頼性係数 6. 分散分析と交互作用 7. 調査報告書のまとめかた 8. 第2調査 ウェブ調査法 予備調査と項目分析 9. 多変量解析の考え方と因子分析 10. 因子分析による尺度構成 11. 重回帰分析の基本 12. 重回帰分析の実践とロジスティック回帰 13. その他の多変量解析について 14. 研究発表とディスカッション 15. 調査全体の総括，授業アンケート						
成績評価の方法	節目ごとの小テストおよび課題（30％），プレゼンテーション（30％），最終レポート（40％）により，調査研究の手法の理解度を評価する。						
成績評価の基準	(1)問題設定は適切であるか，(2)立論は明確か，(3)適切な手続きで尺度が作成されているか，(4)適切な手続きで調査設計が行われているか，(5)多変量解析について十分に理解できているか，(6)分析結果を正しく読み取り，記述できているか，(7)その場しのぎでない発展的な考察ができているか，(8)研究内容を分かりやすくプレゼンできたか，(9)体裁の守られたレポートになっているか，(10)毎回課題を提出できたか，の10点において評価を行う。 「卓越している」：上記のうち9つ以上が基準に達している。 「かなり上にある」：上記のうち8つが基準に達している。 「やや上にある」：上記のうち7つが基準に達している。 「水準にある」：上記のうち6つが基準に達している。						
事前事後学習の内容	毎回、授業内容にしたがってeALPS等を利用した事前事後学習について指示が出される。 60時間以上の時間外学習が必要となります。						
履修上の注意	文化情報論系研究室の3年生は卒業研究の基礎形成のため原則履修とする。それ以外の学生でも履修可能だが、前年度までに文化情報論基礎実習の単位を修得した者、もしくは、同等の能力があると担当教員に判断された学生に限る。 また受講にあたっては基本的な記述統計と推測統計学の知識（「文化情報論特論 Ⅰ」履修相当）が必須となる。実習の初期に統計解析の基礎的理解を確認するためのテストを行い、その後に参加にあたって						

履修上の注意	はこのテストのクリアを要求する。この点に不安がある受講希望者には、受講前に統計学の総復習を自ら行うことを奨める。
質問、相談への対応	実習形式の授業であり、実習中に具体的な質問を受けつける時間は十分に設ける。
教科書	使用しない。
参考書	小宮あすか・布井雅人『Excelで今すぐはじめる心理統計：簡単ツールHADで基本を身につける』講談社 2018 宮本聡介・宇井美代子『質問紙調査と心理測定尺度』サイエンス社 2014 小杉 考司『社会調査士のための多変量解析法』北大路書房 2007